

University of  
**FUKUI**

**国際地域学部**

School of Global and Community Studies





# 未来への道は、ここからはじまる

## 「国際地域」とは

少子高齢化やコミュニティの危機等の進行は、地域の中で深刻な課題となっています。

また、経済のグローバル化は地域にも浸透し、企業のグローバルな展開が進むとともに、地方経済の活性化は急務の課題となっています。

今日のグローバル化された社会の抱える課題の多くは、地域・国内・国際という異なるレベルに共通するものであり、それぞれにおいて相互にかかわりながら分かちがたく展開しているという性格を持っています。

国際地域学部 (School of Global and Community Studies, GCS) では、地域の抱える諸課題の解決とそれを担う人材育成を、国際水準の教育で実現します。



## Admission Policy

入学受入の方針

### 教育目標

地域や国際社会の抱える複雑な課題を探究し、課題解決をしていくための実践的・総合的な能力を身につけ、地域の創生を担いグローバル化した社会の発展に寄与する人材を育成。

### 求める学生像

- ① グローバル化によって地域から国際社会にまで起こっている複雑な諸問題について関心を持ち、それについての探究を深め課題解決に向けて主体的に取り組もうとする意欲のある者。
- ② 課題の探究と解決に向けて、必要な専門的な分野の学習を学ぶ意欲を持つとともに、問題解決の方法や他の人と協働で実践的に取り組んでいくことに積極性のある者。
- ③ 世界共通語的性格をもつ英語はもちろん、多文化的なグローバル社会の中で活躍できるコミュニケーション能力を身につけることに意欲を持ち、他の人との対話を通して、活動を広げ深めようとする者。

## 学部長あいさつ

### 国際地域学部はグローバル化の中で動いていく地域社会に貢献できる人材を育成する学部です

これからの地域社会は、企業も自治体も、またそこに暮らす住民も、グローバル化の流れと切り離して動いていくことはありません。みなさんがやがて巣立っていく社会では、どこにいてもグローバルな社会の動きに対応し、そこで生じるさまざまな課題に対して新しい展望を自ら切り開いていくことが求められます。

国際地域学部は、そうした社会の動きに対応し、自らチャレンジを続けていく人材を育成することを目標としています。そのために、初年次に徹底した英語教育を行い海外留学をめざすこと、さらに各学年を通じて学外の企業や自治体などの現場に出かけてヒアリングや調査を行い自ら提案できる存在に成長することをカリキュラムの大きな柱にしています。

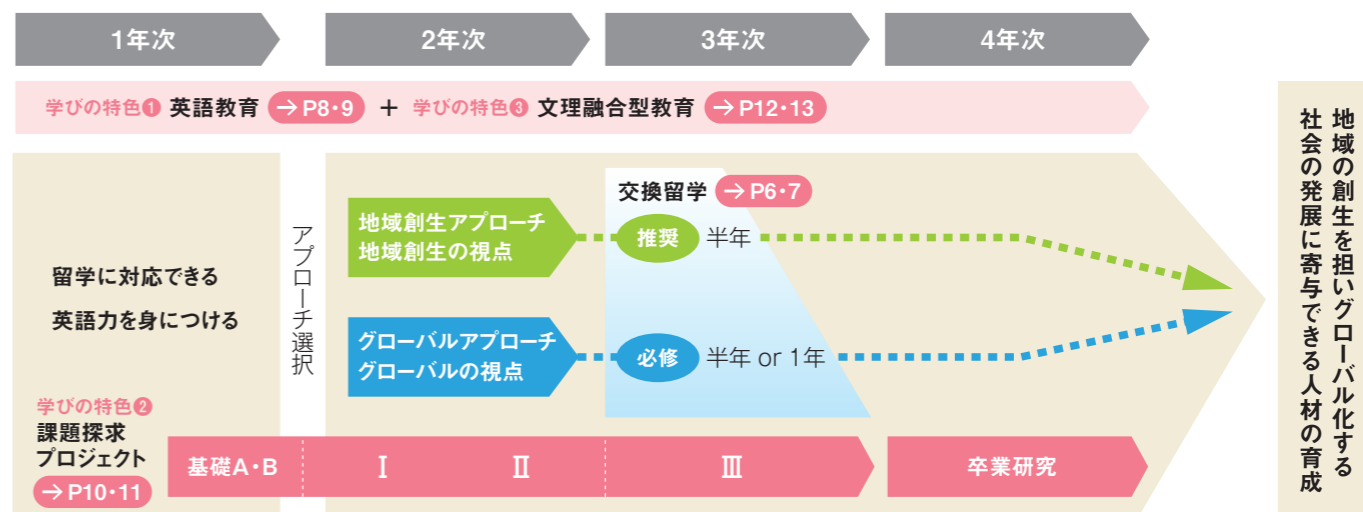
しっかりした将来の展望を持ちながら、自分に必要な学びを自ら構想し取り組むことができる人。この学部はそのような人を求めていますし、そうした力量を鍛える学部です。

国際地域学部長 木村 亮



## 入学後の流れ

本学部では主にグローバルな視点から入る学び方(グローバルアプローチ)と主に地域創生の視点から入る学び方(地域創生アプローチ)の2つのアプローチを用意しています。グローバルアプローチでは1学期間(半年)または2学期間(1年)の海外留学を必修とし、地域創生アプローチでは1学期間の海外留学を推奨しています。



# Student Voices

1年 奥村 颯太さん  
福井県立藤島高等学校 (福井県) 出身

「英語を身につけると世界で活躍できる」。留学に興味を持ったのは英会話の先生に言われたこの言葉でした。英語を習得し、異文化理解を深めたいと思い、この学部に進学しました。今はアメリカの大学への留学を目指しています。スピーキングとリスニングの向上を図るため、LDCで海外映画を見たり、グローバル・ハブで留学生と話すなど自分なりに工夫して生きた英語に触れるようにしています。また、クラスメイトの留学生と親しくなり、考え方や価値観の違いを知ることは、留学に向けた海外生活の基盤作りにも役立っています。

留学に挑戦

語学力も、国際的視野も磨いて



地域創生アプローチ  
4年 伊藤 由羽さん  
福井県立金津高校 (福井県) 出身

英語も地域についても勉強できるところに魅力を感じて、この学部に進学し地域創生アプローチを選択しました。地域の企業や自治体と連携して、課題を掘り進める課題探求プロジェクトという授業では、県内企業の海外事業展開に関するテーマを選び、外国人労働者の離職について調べました。海外展開を図る地元メーカーと密に関わってヒアリングを重ねていくうちに、現地の実情を知りたくなりベトナム工場を訪問。主体的な学びの機会を得ました。同授業では、業界の成り立ちや企業にはどんな職種があるのかを知ることができました。この経験から「海外事業に貢献したい」という明確なビジョンを持ち、就職活動に臨めました。

活動が将来を導く

好奇心をかきたてる



より有意義な留学を

自分を高め、

グローバルアプローチ  
3年 大野 愛美さん  
滋賀県立八日市高等学校 (滋賀県) 出身

自分の回りに留学経験者がたくさんいたことから海外に興味を湧き、留学が必須であるグローバルアプローチを選択しました。1年次のドイツ語の受講をきっかけに、2年次に交換留学可能大学であるドイツハンブルク大学のサマースクールに参加。現地の生活を実際に体験したことで、同大学への留学が明確な目標となり、帰国後はTOEFLの勉強に励みました。今はより有意義な留学に向けて準備中。留学先では語学力のほかに、異文化の中で自分の意志を強く持ち、伝える力も磨きたいです。



# 交換留学プログラム

## 交換留学について

交換留学とは福井大学あるいは国際地域学部が学生交流に関する学術交流協定を締結している海外の大学へ留学することを指します。学生は、福井大学に授業料を支払うことで、留学先大学に授業料を支払うことなく科目履修および単位取得をすることができます。

## 1学期間から2学期間の海外留学

グローバルアプローチでは1学期間(半年)~2学期間(1年)の留学を必修とし、地域創生アプローチでは1学期間の海外留学を推奨しています。カリキュラムの構成上、原則3年次に留学します。出発時期は年2回で、春学期(前期)は1月~4月、秋学期(後期)は8月~10月に留学開始となります。

## 留学資格・留学先の申請と決定

留学申請にはTOEFL ITP 530点とGPA 2.5以上の成績が必要です。留学生の入学条件をTOEFL ITP 550点以上としている協定校も増えているため、学生は十分な英語力と学力を有することが求められます。留学希望先には複数の大学が選べますが、各大学の募集人数は毎学期1~3名と限られています。募集人数を超える応募があった場合、成績や志望理由等を総合的に考慮して留学候補生を決定します。

## 科目履修・単位認定

留学先が決定した学生は出発前に留学先大学で履修する科目を選び、福井大学のどの科目の単位の認定されるかを確認した上で出発します。留学中に取得した単位は、帰国後に所定の手続きを経て正式に認定されます。1学期間で12~15単位を、2学期間で24~30単位の認定を目標とします。



## 2019年度 交換留学可能大学 (2019.7月現在) 年度により変更になる場合があります

<ul style="list-style-type: none"> <li> 韓国                     <ul style="list-style-type: none"> <li>釜山外国語大学校</li> <li>韓国カトリック大学校</li> <li>東亜大学校</li> <li>東国大学校</li> <li>東西大学校</li> <li>ハンバット国立大学</li> <li>韓南大学校</li> <li>漢陽大学校</li> <li>慶北大学校</li> <li>嶺南大学校</li> <li>天主教輔仁大学</li> <li>開南大学</li> <li>銘伝大学</li> <li>国立中央大学</li> <li>国立暨南国際大学</li> <li>国立高雄大学</li> <li>国立中山大学</li> <li>国立雲林科技大学</li> <li>静宜大学</li> <li>東呉大学</li> <li>文藻外語大学</li> <li>元智大学</li> <li>江南大学</li> <li>南昌航空大学</li> <li>蘇州大学</li> <li>天津科技大学</li> <li>上海理工大学</li> <li>西安外国語大学</li> <li>浙江理工大学</li> <li>浙江大学</li> <li>マカオ大学</li> <li>マカオ大学</li> <li>シャクアラ大学</li> <li>ハル・オレオ大学</li> <li>インドネシア大学</li> <li>ベルティ国際大学</li> <li>アサンブション大学</li> <li>バンコク大学</li> </ul> </li> <li> 台湾</li> <li> 中国</li> <li> マカオ</li> <li> インドネシア</li> <li> カンボジア</li> <li> タイ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li> ブルネイ</li> <li> ベトナム                     <ul style="list-style-type: none"> <li>チェンマイ大学</li> <li>チュラロンコン大学人文学部</li> <li>カセサート大学</li> <li>キングモンク工科大学トンブリ校</li> <li>ハヤップ大学</li> <li>プリンス・オブ・ソクラー大学バッテリー校人文社会学部</li> <li>ランシット大学</li> <li>タマサート大学</li> <li>タイ商工会議所大学</li> <li>ブルネイ・ダルサラーム大学人文・社会科学部</li> <li>貿易大学</li> <li>ホーチミン市師範大学</li> <li>ホーチミン市外国語情報技術大学</li> <li>ベトナム国家大学ホーチミン市国際大学</li> <li>ベトナム国家大学ハノイ外国語大学</li> <li>ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学</li> <li>マレーシア科学大学</li> <li>マラヤ大学</li> <li>王立ティンブー・カレッジ</li> <li>王立ブータン大学シェラブツェ・カレッジ</li> <li>クレムソン大学</li> <li>ラトガース大学</li> <li>テキサスA&amp;M大学キングスビル校</li> <li>フィンドレー大学</li> <li>ラ・サール大学</li> <li>メキシコ国立自治大学</li> <li>セントラル・ランカシャー大学</li> <li>ナポリ東洋大学</li> <li>ハンブルク大学人文科学部アジア・アフリカ研究所</li> <li>ヴィータウタス・マグヌス大学</li> <li>ヴィリニユス大学</li> <li>リトアニア教育大学</li> <li>ハベシュ・ボヤイ大学</li> <li>ルーマニア・アメリカ大学</li> <li>ブカレスト大学</li> <li>オンドクスマユス大学</li> </ul> </li> <li> マレーシア</li> <li> ブータン</li> <li> 米国</li> <li> メキシコ</li> <li> イギリス</li> <li> イタリア</li> <li> ドイツ</li> <li> リトアニア</li> <li> ルーマニア</li> <li> トルコ</li> </ul>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

大学名はアルファベット順で記載

# 留学体験記



「リトアニアに留学するんだ」と言うと、「リトアニアってどこ?」「なんでリトアニアなの?」と多くの人に理由を聞かれました。それは、留学=アメリカ、イギリスなど英語圏のイメージがあるからだと思いますが、私は留学するならまったく知らない国や、想像のつかない文化を体験したいという思いがありました。リトアニアの第2の都市カウナスには日本にゆかりのある杉原千蔵記念館があります。私はここで1年間、日本人スタッフとしてツアーグループの対応や個人で来られた方へのガイドをするインターンシップを経験することができました。現地のリトアニア人スタッフとの繋がりや、世界一周している人、旅する夫婦、英語教員などさまざまなバックグラウンドをもつ人たちと出会うことができ、杉原千蔵を通して歴史を伝えていくことの必要性を考えるととても貴重な時間となりました。

1年間という限られた期間だからこそ、大学の勉強だけでなく、普段はできないことに挑戦したり、行かない場所に行ったりする、そんな留学でもいいのかもかもしれません。成功・失敗にとらわれず、そこで得た経験や気持ちは、日本で生活するよりも数倍自分を成長させてくれたと思います。



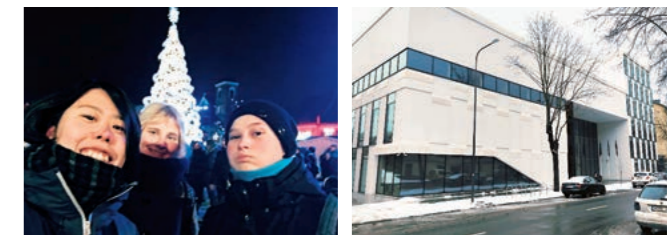
私が留学先としてタイを選んだのは、経済発展の著しいバンコクでその勢いを感じながら留学生活を送りたいと思ったからです。また、優秀な学生たちの中で「自分の力を試したい」という思いもあり、大学は、国内トップのチュラロンコン大学に決めました。キャンパスは、タイの中心部にあるとは思えないくらいとても自然豊かで、学生もゆったりと授業を受けていました。

留学当初は、日本人とばかり過ごし、タイ人とはあまり話せませんでした。しかし、このままではいけないと思い、自分からクラスメイトに話しかけるようになりました。ジムに誘ったり、積極的に大学のイベントにも参加したりするうちに、どんどん友人が増え、今度は彼らからご飯や勉強会などに誘ってくれるようになりました。

このように、少しの勇気で踏み出した一歩が、かけがえのない友人と出会うきっかけになりました。私は友人関係に留学の価値を見出しましたが、それは人それぞれ違って良いと思います。留学に行った学生の数だけそれぞれの留学の物語があります。どんな状況でも環境や周りの人に左右されず、自分自身の行動で道を開いていくことが大切だと10か月間の留学から学びました。

## Time Schedule

	月	火	水	木	金
9:00	ドイツ語	ドイツ語		ドイツ語	ドイツ語
10:00			杉原千蔵記念館でのインターンシップ	黒海地域の政治と経済	植民地化政策
11:00				友人とランチ & 買い物	
12:00	昼食	昼食			
13:00		メディアと大衆文化	昼食		
14:00	課題		杉原千蔵記念館でのインターンシップ		昼食
15:00		社会学と人類学			
16:00					課題
17:00	地政学	宗教と政治			
18:00			友人と夕食	夕食	夕食
19:00	買い物	夕食		課題	友人とバスケ観戦
20:00	夕食	課題			



## Time Schedule

	月	火	水	木	金
9:00					自由時間 映画鑑賞 など
10:00	課題	タイ語		フードカルチャー	
11:00					
12:00	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
13:00					
14:00	メディア文化論	舞台演劇と映画の世界	課題	オーガニックガーデニング	課題
15:00					
16:00					
17:00	ジム	ジム		ジム	ジム
18:00					
19:00	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食
20:00		課題			友人とパーティー



## 世界と地域を繋ぐ人材となるために 少人数で徹底的に英語を学ぶ



### 徹底した英語教育

グローバル社会で活躍できる人材を育成するために、海外留学を含めた多様な経験の機会を提供します。留学先で通常の科目を英語で学べる能力の獲得を目指し、1年次の学生は全員、集中的に英語を学習します。特に最初の半年、ICTを活用した言語開発センターでの学習を含め徹底的に英語を学び、まずは留学資格TOEFL ITP 530点以上、目標550点以上を目指します。

### 1年次の英語教育でレベルアップを実感



入学後は、まず、Reading、Writing、Speaking、Listening、TOEFL対策などの授業で英語の基礎力を高めます。海外ではディスカッションの機会が多いので、10月からはグループディスカッションの授業もスタートし、留学に備えます。外国語の習得は時間がかかり、苦労や戸惑いもありますが、徐々に自分のやり方を見つけられると思います。1年間でTOEFL ITPの平均スコアが30点以上上昇。授業でも学生の英語力が上がっていることを実感しています。



ケリー・キング 准教授

### 学内の語学学習施設・サポート体制

#### 言語開発センター：LDC (Language Development Center)

LDCは外国語を自主的に学習するための設備や教材が揃っています。DVDステーションには洋画・邦画・ドラマ・ドキュメンタリーなど1,000本以上のDVDが置かれています。リーディング・ラウンジには2,500冊を超えるレベル別・分野別の語学教材やTOEFL、TOEIC等の語学試験対策の教材も揃えられています。また、リスニング・スピーキング・発音の練習が可能な遮音設備の整った個別ブースやグループワークに最適な多目的演習室もあります。国際地域学部ではLDCを授業にも利用しています。



#### グローバル・ハブ (Global Hub)

学生が自由に利用できる異文化交流スペースとして設置されました。留学生や日本人学生とランチを一緒に食べたり、勉強したりすることができます。また、Student Coordinator (SC)と呼ばれる学生スタッフが、季節毎のイベントやレクリエーションなどを企画、実施しています。この他にも留学生による各国紹介や留学経験についてのプレゼンテーションなども行われています。最近では「日本語・英語タイム」と呼ばれるイベントも実施され、ゲームやディスカッションなどを通して留学生と日本人学生がより多く話す機会を設けています。

#### U-PASS (University Peer Academic Support Services)

U-PASSは学生チューターが中心となって学習サポートを行うサービスです。主に、①英語のライティング、リーディング、プレゼンテーションのサポート、②TOEFL試験対策、③留学生のための日本語学習サポートを行っています。

学生チューターは担当教員からのトレーニングを受けており、個性を持ったチュータリングを心がけています。U-PASSを利用してテストで良い結果が取れた!などの嬉しい声も聞かれています。皆さんも是非お気軽に利用してみてくださいね。お待ちしております。



### 英語授業について

高校では受験に向けてひたすら問題を解いていたため英語を活用する機会が少なかったのですが、国際地域学部に入学後は様々な場面で英語に触れる機会があり、実践的に英語力を向上できると感じています。

リーディング、ライティング、スピーキングのクラスはレベル別に分かれており、現在の自分に合った無理のないレベルで効率よく英語を学習することができます。また、LDCでの自主学習では、自分の弱点に様々な角度からアプローチし、克服する方法を自分で考え実行していきます。入学当初は、スピーキングに長けている学生と自分の英語力の差に驚いたり、自分の意思を思うように伝えられなかったりと悔しい思いをしました。しかし、ネイティブの先生の授業で実践的な表現を学び、友人や留学生との交流を通して、今では以前よりもスピーキングに自信が持てるようになりました。これからも幅広く自分を表現できる力を身につけ、留学に活かせるものにしていきます。

1年 児玉 七海さん



## 地域の企業・自治体等と連携した 地域密着型の課題探求プロジェクト

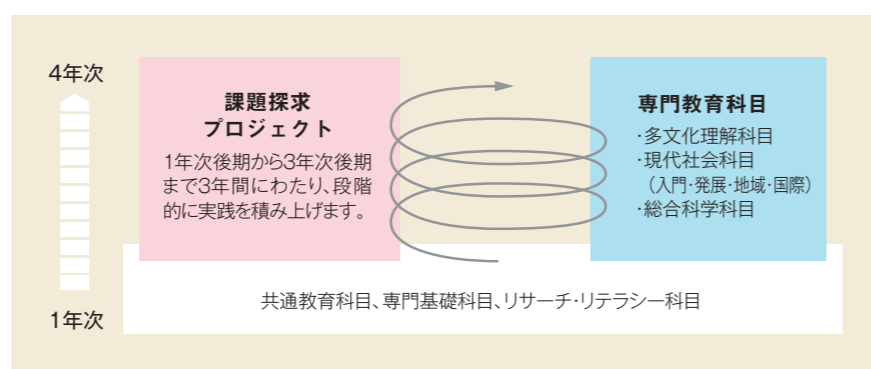


「課題探求プロジェクト」は、企業や自治体等に出向いて様々な課題を知り、調査し、課題解決の一端を担う実践的な科目群です。実践的な学びと、課題を理解分析する幅広い専門分野の学習を有機的に結び付ける形でカリキュラムを構成しています。プロジェクトは、越前漆器や和紙等の「伝統工芸産業の課題」「福井の企業の海外事業展開」などのテーマから決定し、学年進行に伴い到達

目標を高度化させ、最終的には専門的な学問分野に即して調査・研究し、卒業研究につなげます。こうした「課題探求プロジェクト」を中核に据えたカリキュラムを通じて、それぞれのテーマに内在する問題の探究とその解決、意思決定や批判的な思考を育むとともに、リアルな現場としての社会を理解し、自分の進路への意識とそれに適応する能力を身につけます。

### 課題探求プロジェクトと専門教育科目の結びつき

実践的なプロジェクト学習を継続的に深めながら、それと関わる専門教育科目の知識と方法を、らせん的なサイクルで習得します。



### 課題探求プロジェクトの協力企業・自治体等

- |                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                   |                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>【製造業】</b><br/>黒龍酒造株式会社<br/>セーレン株式会社<br/>日華化学株式会社<br/>フクビ化学工業株式会社<br/>前田工織株式会社 など</p> <p><b>【報道機関】</b><br/>株式会社福井新聞社<br/>福井ケーブルテレビ株式会社<br/>福井テレビジョン放送株式会社<br/>福井放送株式会社</p> | <p><b>【卸・小売業】</b><br/>株式会社タッセイ<br/>協同組合福井ショッピングモール<br/>福井キヤノン事務機株式会社<br/>福井県民生活協同組合<br/>三谷商事株式会社 など</p> <p><b>【金融・保険業】</b><br/>株式会社福井銀行<br/>福井信用金庫</p> <p><b>【運輸業】</b><br/>えちぜん鉄道株式会社<br/>京福バス株式会社</p> | <p><b>【サービス業】</b><br/>芦原温泉旅館協同組合加盟旅館<br/>近畿日本ツーリスト株式会社 福井支店 など</p> <p><b>【その他】</b><br/>福井県経営者協会<br/>まちづくり福井株式会社 など</p> <p><b>【タイ】</b><br/>アサンブション大学<br/>カセサート大学<br/>マヒドン大学 など</p> | <p><b>【自治体】</b><br/>福井県<br/>福井市<br/>大野市<br/>勝山市<br/>鯖江市<br/>あわら市<br/>越前市<br/>永平寺町 など</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|

## 課題探求プロジェクト (Project-Based Learning) の授業紹介

	第1クォーター	第2クォーター	第3クォーター	第4クォーター
1年次	—	—	基礎A	基礎B
2年次		I		II
3年次		III A		III B
4年次		III C		—

### 課題探求プロジェクト 基礎A

基礎Aでは、1年生全員が福井県の産業振興や地域振興の現状、課題に触れます。現場で考え、行動している人から直接に知識を引き出し、また知識やスキルを他人に伝える経験を通じて、現実社会の在り方に「気づく」ことを目的としています。

学生は各グループに分かれテーマを設定し、企業や自治体等へのヒアリングを通じて、実情や課題を学びます。授業では常に問題意識を持って課題に取り組み、解決力を高めていきます。また、最終報告会ではヒアリング先の企業や自治体の方々をお招きし、報告を行います。基礎Aを通じ、社会と関わることで視野を広げ、社会人としてのマナーやディスカッションスキル、プレゼンテーションスキルを高めていきます。

### PBL- Introduction B (Storytelling)

The Storytelling PBL course focuses on the telling and sharing of stories in English for the purpose of communication. Students have multiple opportunities to speak with their classmates in English, supporting their overall English language literacy and oral presentation skills through an engagement in "literacy in action." Students research and learn a number of stories and engage directly in storytelling activities through the use of picture books and video, as well as through role play. The course culminates in a project—a STORYTELLING EVENT. On the day of the event, students will tell/perform stories in English (with bilingual support) and organize accompanying activities to share with children and parents in the local community.

### PBL- Introduction B (Study Abroad)

This course focuses on challenges and trends of higher education in Thailand and Japan today. Students will study each country's definition of so called "global human resources" and its higher education policy to cultivate them. Students will compare, analyze problems and challenges in education policy implementation in each country, and discuss similarities, differences and the reasons for them between the two countries. Through this course, students will identify and acquire 21st century skills needed to be successful in today's globalizing world, and finally they are expected to design their study plans for the next three academic years to achieve their future career goals.



### 課題探求プロジェクト I・II (グローバルアプローチ)

グローバルアプローチでは、2つのテーマに分かれて活動します。

#### テーマ1: Fukui Culture and Community

Students learn about traditional products or culture of Fukui from experts in the local community, and then work in teams to research and promote these local products or culture domestically and internationally. In 2017 and 2018, students created English-language pamphlets for introducing Fukui culture to international visitors through research visits at local sake breweries and taiken organizations (making soba, zen meditation, etc.). These pamphlets are offered at tourist spots all over Fukui and even outside Fukui at the Fukui Satellite shop in Tokyo, Chubu Airport, and Kansai Airport. In 2019, students are investigating lesser-known historical parts of Fukui and creating English-language videos on these topics for domestic and international audience.



#### テーマ2: 福井国際フェスティバルの企画・運営、展示物の制作

福井や地域社会における外国人の現状を理解し、文化と言語の観点から、課題の発見と探求にあたります。国際交流イベントを通じて、地域社会をグローバルな視点から複眼的に眺める姿勢を身につけます。



### 課題探求プロジェクト I・II (地域創生アプローチ)

I・IIでは、特定の企業・自治体等を対象に、時間をかけてその内外の環境についてヒアリングや調査を行い、対象を総合的に理解する方法を身に付けることを目的とします。企業経営者・自治体の方に経営や運営に関して講演いただいたり、学外研修に出かけたりと、1年次よりも学習内容が濃くなり、活動範囲が広がります。授業では小グループごとにテーマを設定し、その現状と課題を掘り下げていきます。また3年次(III A・B)には、2年次に取りまとめた現状や課題を踏まえて調査を進め、課題解決のための提案作成へとつなげていきます。



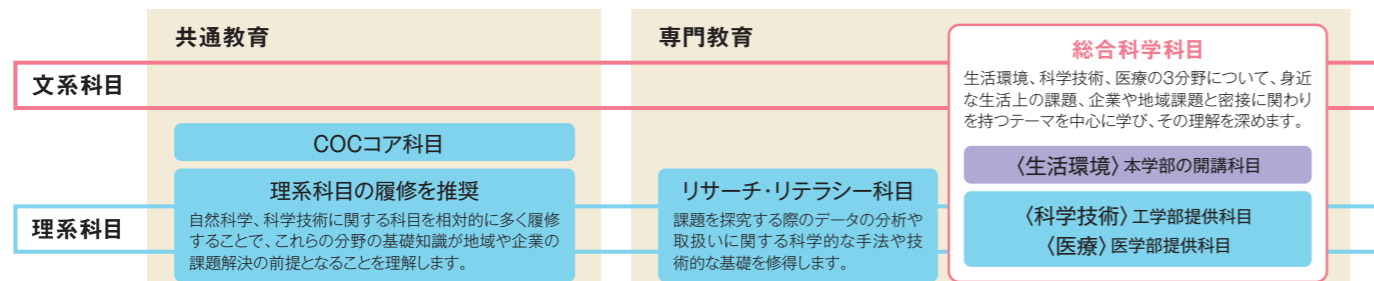
# 医学部・工学部との連携による 幅広い学識を培う文理融合型教育



共通教育では、数学や自然科学、科学技術に関する科目を履修することで、これらの分野の知識が、地域や企業の課題解決の前提となることを理解します。

課題を探究する際のデータの分析や取り扱いに関する科学的な手

法や技術的な基礎を「リサーチ・リテラシー科目」として受講します。医学部・工学部との連携により、地域の複合的な諸課題や、課題探求プロジェクト、専門科目等と関連性をもつ自然科学系の専門科目を「総合科学科目」として受講します。



注「COCコア科目」とは、地域の課題を体系的に学習する科目を言います。(COC=Center of Community)

## Q & A

**Q 留学にはどのくらいの費用がかかりますか。奨学金などの支援はありますか。**

**A** 交換留学の場合、留学先大学での授業料は免除となります(但し、本学に在籍したまま留学しますので、福井大学に授業料を納めることになります)が、往復渡航旅費、保険料、宿舍費、食費、生活費、教科書代等が別途必要です。その費用は、国・地域、留学期間、滞在施設等によって異なり、基本的には個人負担となりますが、各種支援金や奨学金による留学費用のサポートがあります。留学費用は、北米・欧州：半年間=70~90万円、1年間=120~150万円、アジア：半年間=40~50万円、1年間=70~90万円ほど必要となります。

**Q 課題探求プロジェクトで訪問する機関や取り組む課題を自由に選択することができますか。**

**A** 訪問する機関や取り組む課題は、一連のプロジェクト学習の進展の中で、各人の興味や関心に基づき選択していく仕組みをとります。なお、このプロジェクトには、福井県内のさまざまな業種から多数の企業や自治体に参加予定で、幅広い選択が可能です。

**Q なぜ理系科目の履修が必要なのでしょうか。**

**A** 本学部では、地域創生とグローバル化社会の発展に求められる専門性と学際性に裏付けられた幅広い学識を培うために文理融合型の教育を行います。特に、「総合科学科目」においては、生活環境、科学技術、医療の3分野において、自然環境や住環境、エネルギー・原子力、ものづくり、建築・住居環境、医療・医学・看護・保健等の基礎について学び、企業や自治体で活躍できる自然科学の基礎的・実践的素養を身に付けます。

**Q 途中でアプローチを変更することはできますか。**

**A** アプローチの途中変更は可能です。アプローチを選択する2年次以降の専門教育においても、履修内容を固定化せず、共通の科目履修とアプローチによる科目履修により、興味関心に応じた主体的な学習を保障する柔軟なカリキュラム編成となっています。

**Q 公務員を目指すことはできますか。**

**A** 本学部の目的は、「地域の創生を担う人物」と「グローバル化する社会の発展に寄与できる人材」の双方を兼ね備えた人材を育成することです。公務員は本学部が育成する人材像に合致しており、有力な就職先と考えています。また、公務員に必要な法律や政治学等の科目も開講しており、課題探求プロジェクトの授業では、自治体のフィールドで自治体が抱える課題の解決に向けた活動等も行います。さらに、学内で公務員試験対策講座を開講する等、就職支援も充実しています。

## カリキュラム

Q=クォーター、【 】内は開講科目数

区分	1年次				2年次				3年次				4年次			
	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
専門教育科目	卒業研究 【2科目】															
	課題探求プロジェクト 【7科目】															
	多文化理解科目 【39科目】															
	現代社会科目 【41科目】															
	総合科学科目 【20科目】															
	リサーチ・リテラシー科目 【11科目】															
共通教育科目	専門基礎科目【1科目】				日本理解科目 【5科目】											
	外国語科目 【21科目】															
	共通教育科目 入門科目、基礎教育科目、共通教養科目 【168科目】												【合計 315科目】			

※国際地域学部で開講される科目には、第1から第4クォーター(1クォーターは8週)からなる「クォーター制(4学期制)」と、前期と後期からなる「セメスター制(2学期制)」で開講されるものがあります。

## アプローチ別の履修例

※留学先の大学で履修した科目のうち、本学の既存の科目と内容、教育目標等が合致する科目について、最大36単位まで単位認定。

地域創生アプローチ	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
課題探求プロジェクト科目	課題探求プロジェクト基礎A(2) 課題探求プロジェクト基礎B(2)	課題探求プロジェクト(2)	課題探求プロジェクトII(2)	課題探求プロジェクトIII A(2)	課題探求プロジェクトIII B(2)			
大学教育入門セミナー(2)	国際地域概論(2)	東洋史A(2)	東洋史B(2)	海外留学	エネルギーと環境(2)	まちづくり論(2)		
情報処理基礎(2)	English Reading III(1) English Reading IV(1) English Writing III(1) English Writing IV(1)	コミュニティと住民組織(2)	中国語I(1) 中国語II(1)		日本の学校教育(2)	日本海地域の自然と環境(2)		
英語I(1)・II(1)	英語III(1)・IV(1)	英語V(1)・VI(1)	英語VII(1)・VIII(1)		ものづくり基礎工学(2)	資源エネルギー概論(2)		
TOEFL対策講座(1)	統計入門(2)	データサイエンスI(2)	社会調査論(2)		地域情報システム(2)	卒業セミナー(1)		
リサーチ入門(J)(2)	法学概論(2)	コミュニケーションのための日本語教育論(2)	地域計画論(2)		福井地域の歴史(2)	卒業研究(6)		
スピーキングI(2)	経済理論(ミクロ)(2)	経営学概論(2)	産業地理学(2)		地域文化マネジメント(2)			
ジェンダー論(2)	弁論法(2)	民法(総則)(2)	経済政策論(2)		国際コミュニケーション論(2)			
	異文化コミュニケーション(2)	行政法I(総論)(2)	国際政策(2)					
		比較文化論(2)	留學セミナー(1)					

(例) 10単位を認定\*

※留学先の大学で履修した科目のうち、本学の既存の科目と内容、教育目標等が合致する科目について、最大36単位まで単位認定。

グローバルアプローチ	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
課題探求プロジェクト科目	海外研修	課題探求プロジェクト基礎A(2) 課題探求プロジェクト基礎B(2)	課題探求プロジェクト(2)	課題探求プロジェクトII(2)	課題探求プロジェクトIII B(2)	課題探求プロジェクトIII C(2)		
大学教育入門セミナー(2)	国際地域概論(2)	ドイツ語I(1) ドイツ語II(1)	経済学C(2)			コミュニティと住民組織(2)	フロントランナー(2)	
情報処理基礎(2)	English Reading III(1) English Reading IV(1) English Writing III(1) English Writing IV(1)	英作文I(1) 英作文II(1)	アメリカの文化(2)			まちづくり論(2)	文学にみられる女性(2)	
英語I(1)・II(1)	英語III(1)・IV(1)	英語V(1)・VI(1)	英語VII(1)・VIII(1)			科学技術と環境(2)		
TOEFL対策講座(1)	統計入門(2)	日本史概説(2)	ヨーロッパの映画(2)			卒業セミナー(1)		
リサーチ入門(E)(2)	情報技術基礎(2)	コミュニケーションのための日本語教育論(2)	ドイツ語III(1) ドイツ語IV(1)			卒業研究(6)		
ライティングI(2)	経済理論(ミクロ)(2)	経営学概論(2)	Academic English Reading I(1) Academic English Reading II(1)					
現代社会とビジネス(2)	弁論法(2)	民法(総則)(2)	Academic English Writing I(1) Academic English Writing II(1)					
	異文化コミュニケーション(2)	比較文化論(2)	日本の近代文学(2)					
		言語学入門(2)	知的財産の基礎知識(2)					
			経済政策論(2)					
			留學セミナー(1) 教育における社会正義の問題(2)					

(例) 20単位を認定\*

※年度により変更になる場合があります

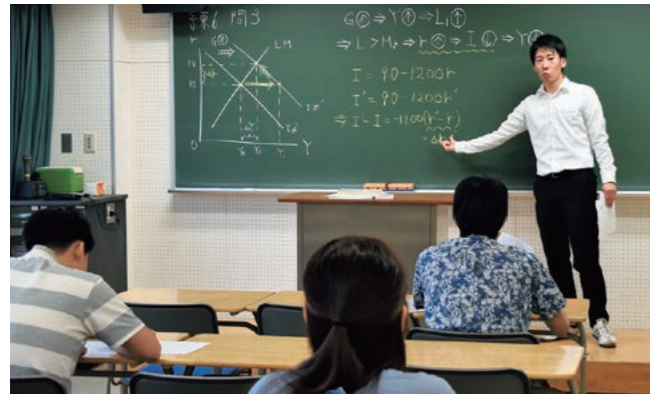
## 科目ピックアップ

### 地域創生アプローチ

#### 経済理論 (ミクロ)

飯田 健志 講師

経済理論(ミクロ)では、消費者行動や生産者行動の理論を通じて資源配分問題について学びます。資源配分問題は、私たちの選択によってもたらされます。パンかご飯か、バスか車か、地元に残るか都会に出るか、私たちは常に選択をしています。理由は、より大きな利益を得るためです。私たちはどのような利益に基づいて選択をおこなうのか、各人の選択はお互いにどのような影響をもたらすのか、その結果どのような資源配分が実現するのか。すべての経済活動に共通する選択に関する理論を学び、私たちが直面する今日的課題について論理的に立ち向かう力を身につけてもらいたいです。



#### ジェンダー論入門

羽田野 慶子 准教授

「四年制大学への進学率」「一般労働者の賃金」「正規雇用と非正規雇用の割合」「一日の家事・育児時間」「生涯未婚率」…これらにはすべて「ジェンダー格差」があります。私たちの社会は、「女性」と「男性」という二つの性別だけが存在することを前提に、「女性」「男性」それぞれに異なる役割を課して形作られてきました。しかし、性別によって個人の生き方や可能性が枠付けられてしまっているのでしょうか？片方の性別が何らかの不利益を押しつけられていないのでしょうか？この授業では、現代社会のジェンダー不平等な現実を理解し、より平等で差別のない社会をつくるためにはどうすればよいか、皆さんと考えます。



### グローバルアプローチ

#### 国際関係論

細谷 龍平 特任教授

「国際」と「地域」をつなぐ本学部の国際系の基本科目です。複雑な国際関係の諸相を巨視的、体系的に取り上げます。国際政治、国際経済、グローバル化、国際法、外交、国際機構、及びそれら全ての背景にある歴史も交え、国際社会に働く原理を学びます。その原理は地域を含む国内社会のあり方にも通じます。また、地域こそがグローバル化の源泉であるとする「グローカル化」論など、国際と地域とをつなぐ新しい学問領域「国際地域学」の構築を目指しています。授業は、講義は導入だけで、大半は学生が主役となるアクティブ・ラーニングを様々な形で模索、実践しています。



#### ドイツの現代事情

磯崎 康太郎 准教授

EUの一つの中核として、新しい社会づくりに取り組んでいるドイツの現代事情について理解を深め、社会現象を多面的・多角的に考える姿勢を身につけます。特定のテーマを設定したうえで、講義形式を中心にして授業を進めますが、学生の皆さんの発表も交えます。例えば、複合領域として、さまざまなアプローチが可能な環境問題について、現在のドイツの歩みを支える考え方、教育、文化的側面を、日本との比較の視点を取り入れながら検討します。



## 就職サポート

### 就職に強い! 福井大学!!

高い就職率

# 国立大学 12年連続 No.1

大学通信調査の「全国大学就職率ランキング」で、複数学部を有する卒業生1,000人以上の国立大学において11年連続1位。学部別の実績(2017年度卒業生)でも、高い就職率を誇っています。

実就職率=就職者数÷(卒業生数-進学者数)

高い定着率

## 企業から 高評価

就職先企業の質の高さや学生の社会人基礎力の高さから、在籍3年以内の離職率は9.2%\*1と全国平均(31.9%)\*2に比べ、非常に低い数字となっています。この離職率の低さは、就職先の職場の雰囲気や人間関係が良好でミスマッチが少なく、また、給与・勤務時間・福利厚生などの労働条件が良い企業に就職できている証拠と言えます。 \*1「福井大学の教育と卒業生についてのアンケート調査2016」 \*2 2016年厚生労働省調査「新規学卒就職者の在職期間別離職率の推移」



#### ■ 学生を支える充実した就職支援体制

全学を挙げて、全ての学生に行き渡る就職支援体制を構築しています。

- ・就職担当教員とキャリアカウンセラーが内定までサポート
- ・大学独自のキャリアサポートシステムの提供

#### ■ きめ細かな就職支援活動の実施

年間を通して60回以上のガイダンス等を開講しており、就職活動に慣れない学生の不安の解消に努めています。

- ・充実した就職支援講座の開講
- ・多くの企業との出会いの場の提供

取得可能な資格

- 社会調査士

想定される卒業後の進路

- 国、地方自治体、関連諸団体
- グローバルに展開する企業
- 商業・金融・サービス業・マスコミ等の企業
- 観光業
- 国際交流団体、国際機関
- シンクタンク
- 大学院進学 など

## 入試実績・入試情報

### 国際地域学部入試試験実施状況

(国際地域学科)	一般入試(前期)				一般入試(後期)				特別入試(推薦II)				特別入試(AO入試I)				特別入試(私外他)				計									
	募集	志願	受験	合格	募集	志願	受験	合格	募集	志願	受験	合格	募集	志願	受験	合格	募集	志願	受験	合格	募集	志願	受験	合格	入学					
2018年度	35	91	81	40	36	15	91	32	19	16	10	18	18	10	10	若干名	21	6	3	3	若干名	2	1	0	0	60	223	138	72	65
2019年度	32	135	121	37	33	13	197	76	16	12	10	23	23	10	10	5	10	10	5	5	若干名	7	6	4	3	60	372	236	72	63

### 2019年度 入試情報

#### 一般入試(前期日程・後期日程)

大学入試センター試験、個別学力検査及び調査書等を総合して選抜します。詳細は、「一般入試学生募集要項(10月発表予定)」でご確認ください。

#### 特別入試(推薦II)

出身学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し、幅広い基礎学力を総合的に判定するため、大学入試センター試験を課します。さらに、面接を実施し、国際・地域社会の諸課題に取り組む意欲・資質・適性を評価します。詳細は、「推薦入試学生募集要項(9月上旬発表予定)」でご確認ください。

#### 特別入試(AO入試I(高大接続型入試))

大学入試センター試験は免除し、第1次選考では、高校で取り組んだことやその成果、それが大学での学びや社会活動にどうつながっていくかに関するレポート等により、取り組みの内容と文章力及び自己アピール力を評価します。また、調査書等により基礎学力の判定を行います。最終選考では、取り組みに対するプレゼンテーションと面接により、国際・地域社会の諸課題に取り組む意欲・資質・適性を評価します。詳細は「AO入試I(高大接続型入試)学生募集要項(9月上旬発表予定)」でご確認ください。

\*各入試の概要や総合的な案内は、「入学者選抜要項(7月発表予定)」でお知らせします。  
\*学生募集の概要は、本学ホームページ「受験生の方へ」もご覧ください。様々な入試情報をタイムリーに確認することができます。

### 2020年度 国際地域学部募集人員

学科	入学定員	発表時期		推薦入試 II	AO入試 I
		前期	後期		
国際地域学科	60	32	13	10	5

#### 入試に関するお問い合わせ

学務部入試課 TEL:0776-27-9927

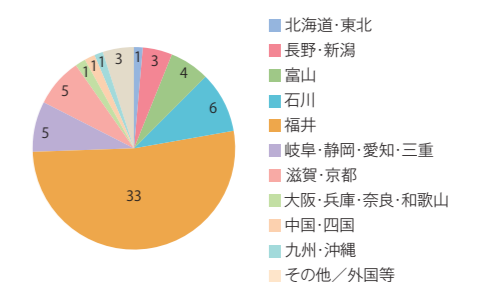
\*お問い合わせはできるかぎり、志願者本人が行ってください。  
また、必要に応じてメモを取ってください。

### 募集要項等の発表時期

入試種別	募集要項	発表時期
入学者選抜要項(入試概要)		7月上旬
一般入試	前期日程	10月中旬
	後期日程	
推薦入試	推薦入試II	9月上旬
AO入試	AO入試I	9月上旬

\*発表時期は変更する場合があります。  
\*私費外国人留学生入試の募集要項希望者は、入試課に照会してください。

### 2019年度 入学者出身地地域別人数

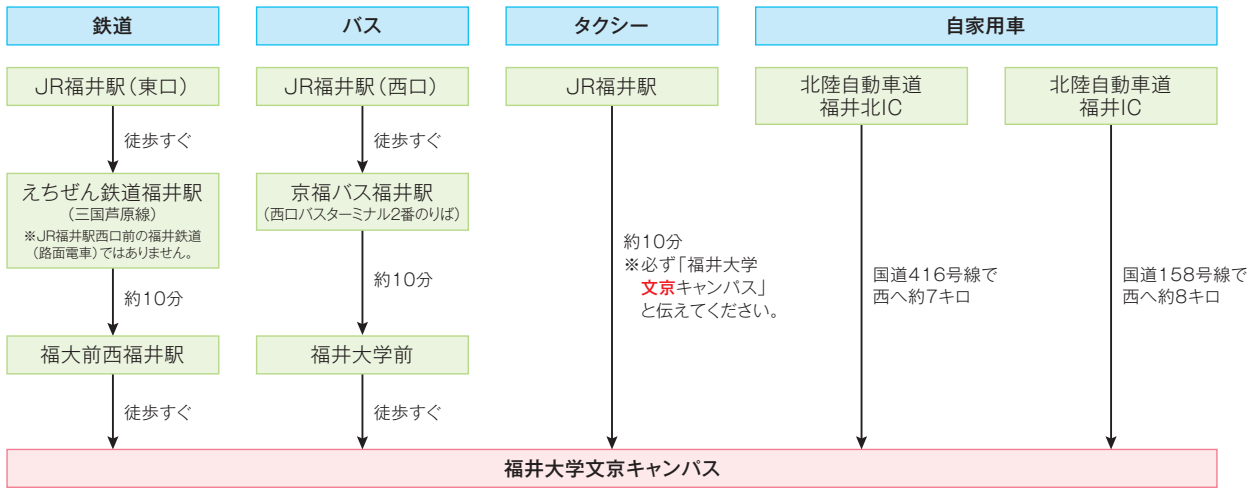




# アクセス



名古屋	(電車で約1時間40分又は、バスで約2時間50分)	福井
大阪	(電車で約1時間50分又は、バスで約3時間30分)	
東京	(電車で約3時間30分、東海道新幹線、北陸新幹線経由)	



創造力、実践力。  国立大学法人  
**福井大学**  
UNIVERSITY OF FUKUI

学務部入試課 〒910-8507 福井県福井市文京3丁目9番1号  
お問い合わせ先: TEL.0776-27-9927 E-mail:g-nyusi@ad.u-fukui.ac.jp  
<http://www.u-fukui.ac.jp>

